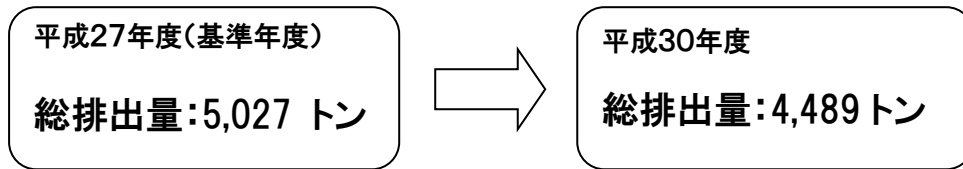


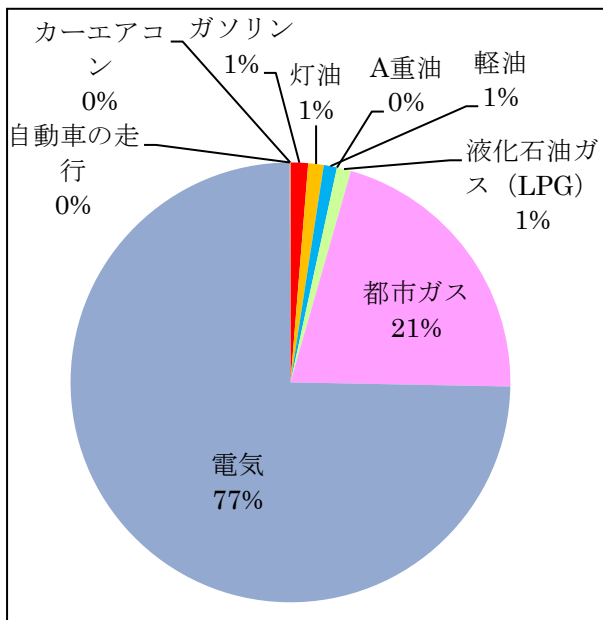
# 平成30年度温室効果ガス排出量まとめ

## 1. 温室効果ガス排出量について

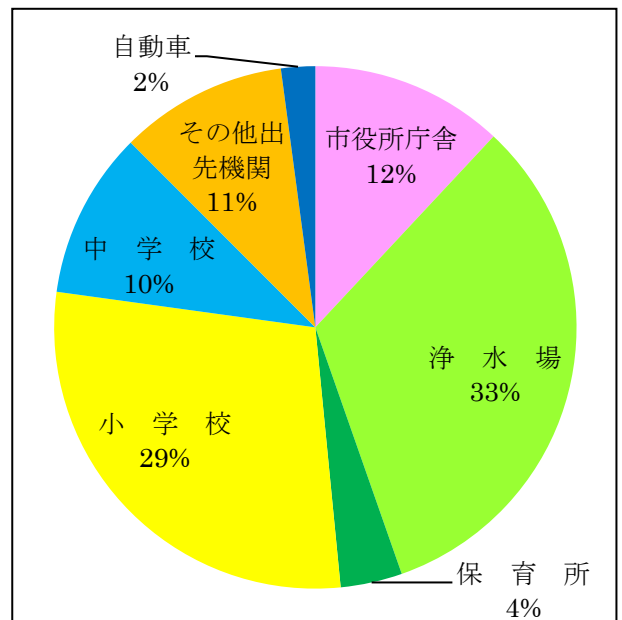


※平成27年度比 10.7%削減

発生源別二酸化炭素排出割合



施設別二酸化炭素排出割合



## 2. 森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量

🌲 森林整備面積：4.04ha

🌲 CO<sub>2</sub>吸収量：61.5t

H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30

(45.7 + 59.2 + 157.0 + 108.2 + 65.7 + 52.0 + 31.9 + 30.5 + 48.0 + 16.7) ÷ 10年 = 61.5t

全体(総排出量:4,489t-CO<sub>2</sub>吸収量:61.5t) = 4,428t

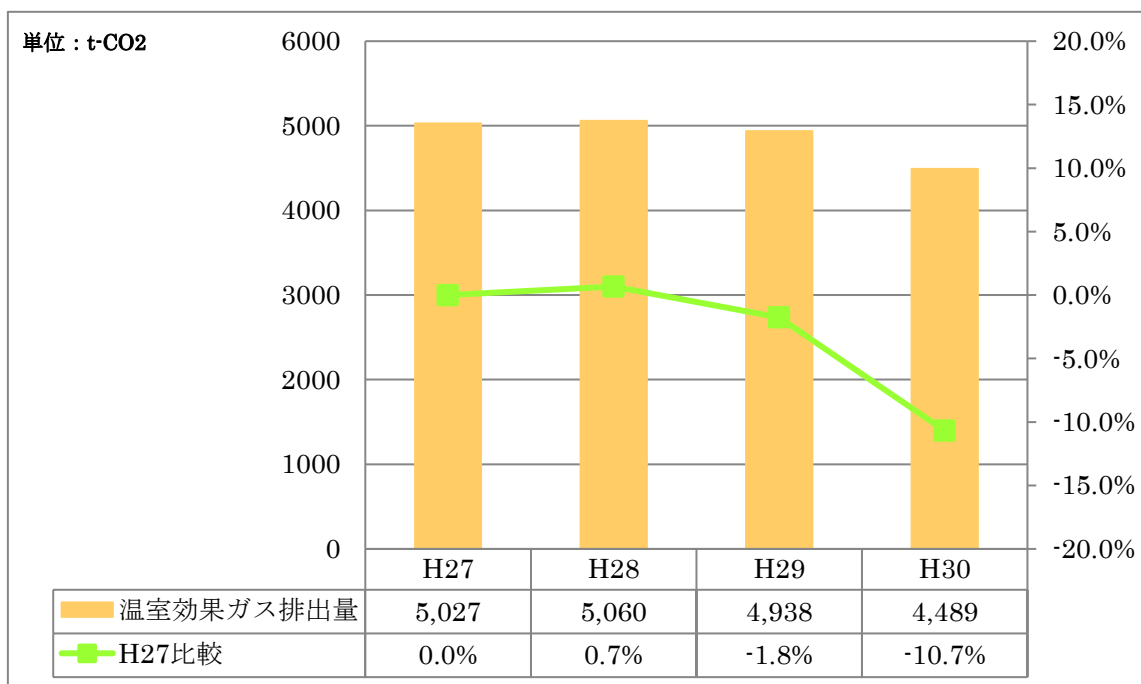
※平成27年度総排出量 4,953t

H27年度比  
10.6%削減

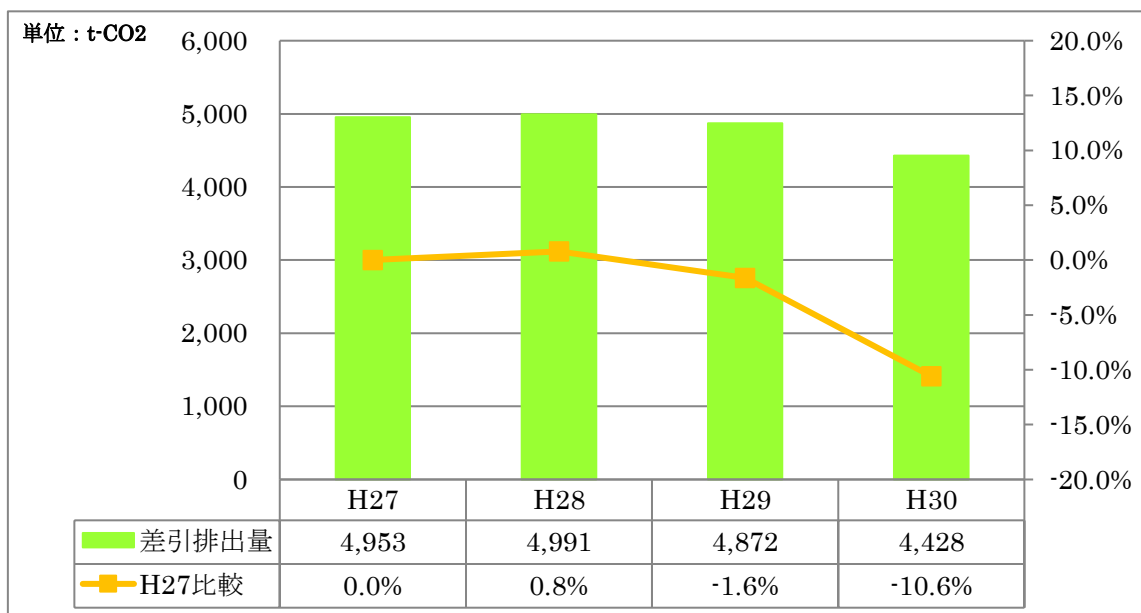


《推移》

① 【温室効果ガス排出量推移】



② 【温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移】



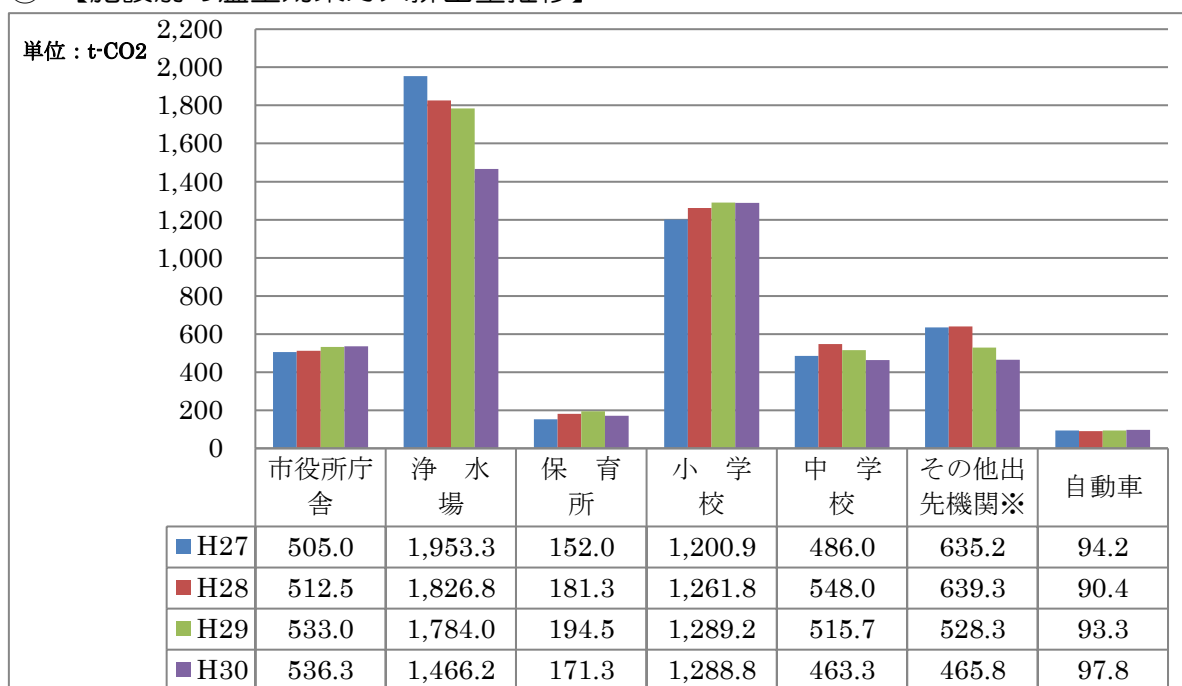
①のグラフは、基準年である平成27年度から計画の対象年度である平成30年度までの推移を比較したグラフです。②のグラフは、①の排出量から森林吸収量を差し引いたグラフです。

平成 30 年度に対象施設から排出された温室効果ガス排出量は 4,489 t であり、長岡京市役所地球温暖化防止実行計画の基準年度である平成 27 年度の温室効果ガス排出量 5,027 t と比較すると 10.7%削減することができました。また森林吸収量を含めた温室効果ガス排出量の比較においては森林吸収量の減少がありましたが 10.6%削減することができました。

温室効果ガス排出量を削減できた背景としては、いくつかの増減要因はあるものの、関西電力の排出係数が下がったことによる影響が最も大きいと考えられます。

電気の温室効果ガス排出係数に着目して見ると、平成 30 年度は 0.418 と平成 29 年度の 0.493 と比較して 15.2%下がりました。電気の排出係数は平成 27 年度の 0.523 を境に減少傾向にあります。全体として電気使用量を削減できたことと電気の排出係数の減少により、温室効果ガス排出量を 10.7%削減することができました。

### ③ 【施設別の温室効果ガス排出量推移】



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

③のグラフは、基準年である平成 27 年度から計画の対象年度である平成 30 年度までの施設別温室効果ガス排出量の推移を表したグラフです。

施設別で見ると、最も電気使用量の大きな浄水場関連施設については、使用量自体に5万kWh程度の減少が見られましたが、元々の母数が大きいため、大きな臨時要因があるわけではありません。年間の水需要量などにより自然増減する程度の差であり、それ以上に温室効果ガス削減の効果が大きかったのは、やはり関西電力の排出係数の減少です。多世代交流ふれあいセンターについては、H29.10～12に空調改修工事として、燃料をA重油から電気に転換しており、その影響がH30年度は初めて丸1年間となることから、温室効果ガス減少につながりました。小中学校についても、関西電力の排出係数減による影響は受けていますが、一つ大きな増加要因として、中学校給食導入による長十小の給食棟稼働が挙げられます。それにより長十小の電気使用量はH29年度133,291kWhからH30年度235,714kWhと大幅な増加となりました。

平成28年4月からの電力小売自由化により今後競争入札により電気事業者を変更する施設も出てくるかもしれませんが、そのときには電気料金が安価でかつ、環境にやさしい電力（排出係数の低いもの）を購入していく必要があります。

今後も電気の排出係数の動向、環境の変化による猛暑・厳冬によって温室効果ガス排出量の算定に影響を与える可能性があります。長岡京市役所地球温暖化防止実行計画に掲げる取組みを着実に推進し、エネルギーの使用量の削減に取組み、市内有数の温室効果ガス排出事業者として率先して地球温暖化防止に努めていきます。